

SPA8000電話アダプタのオーディオ設定

目的

使用されるコーデック、無音圧縮の有効化、デュアルトーン多重周波数(DTMF)トーンに関しては、異なるオーディオ設定があります。コーデックは、受信者が送信された情報を正確に再現できるプロトコルです。無音圧縮は、コールの通話相手のいずれかが会話していない場合に使用されます。DTMFは、電話機が他のデバイスと通信する周波数で生成する信号です。この記事では、SPA 8000電話アダプタのオーディオ設定の設定方法について説明します。

該当するデバイス

- SPA8000

[Software Version]

- 6.1.12

基本的なオーディオ設定

ステップ1：管理者としてWeb構成ユーティリティにログインし、[Basic] > [Voice] > [L1-L8]を選択します。[Line]ページが開きます。

Network		Voice	
Info System SIP Regional L1 L2 L3 L4 L5 L6 L7 L8 T1 T2 T3 T4			
Trunk Status			
User Login basic advanced			
Line Enable:	yes		
SIP Settings			
SIP Port:	5060		
Proxy and Registration			
Proxy:	10.1.1.1		
Register:	yes	Make Call Without Reg:	no
Register Expires:	3600	Ans Call Without Reg:	no
Subscriber Information			
Display Name:	Line 1	User ID:	601
Password:	*****	Use Auth ID:	yes
Auth ID:	100		
Audio Configuration			
Preferred Codec:	G726-40	Use Pref Codec Only:	no
Silence Supp Enable:	no	FAX CED Detect Enable:	yes
DTMF Tx Method:	Auto		
Undo All Changes		Submit All Changes	

ステップ2:[Audio Configuration]領域までスクロールします。

ステップ3:[Preferred Codec]ドロップダウンリストからコーデックを選択します。コーデックは、受信者が送信された情報を正確に再現できるプロトコルです。可能なコーデックは次のとおりです。

- ・ G711u : コンパANDINGに使用されます。μ-law符号化では、14ビットの符号付きリニアオーディオが入力として取り込まれ、その大きさを32増やし、8ビット値に変換します。
- ・ G711a : コンパANDINGに使用されます。A-lawエンコーディングは、13ビットの符号付きリニアオーディオを取り、8ビット値に変換します。
- ・ G726-16 : チャンネルが過負荷のときに使用されます。16 Kbit/sの送信音声レートを持つデジタル回路乗算装置で音声を伝送するのに役立ちます。
- ・ G726-24 : チャンネルが過負荷のときに使用されます。デジタル回路増倍装置の音声伝送に役立ち、送信音声レートは24 Kbit/sです。
- ・ G726-32 : 電話ネットワークのトランクで使用され、32 Kbit/sの送信音声レートを伝送します。
- ・ G726-40:Digital Circuit Multiplication Equipment (DCME ; デジタル回路乗算装置) でデータモデム信号を伝送するために使用されます。特に、伝送音声レートが40 Kbit/sの4800ビット/sを超える速度で動作するモデムのの場合に使用します。
- ・ G729a : 音声データ圧縮に使用されます。G729aは、デジタル音声を10ミリ秒のパケットで圧縮します。
- ・ G723:300 Hz ~ 3400 Hzの音声品質を提供

ステップ4:[Silence Supp Enable]ドロップダウンリストから、無音圧縮に割り当てるステータスを選択します。無音圧縮は、コールの通話者の1人が音声を使用しておらず、データがネットワークを介して送信されていない場合に使用されます。この機能は、ネットワークに送信される無音情報のパケットをブロックし、ネットワークの帯域幅を削減します。デフォルト値はnoで、抑制が無効になります。

ステップ5:[DTMF Tx Method]ドロップダウンリストから必要なオプションを選択します。DTMFはDual-Tone Multi-Frequency (デュアルトーンマルチ周波数) の略です。DTMFは、電話機が他のデバイスと通信する周波数で生成する信号です。可能なオプションは次のとおりです。

- ・ InBand:DTMFトーンは、データに使用される同じ帯域またはチャンネルを介して送信されます。
- ・ AVT:DTMFトーンはAudio Visual Transport(AVT)によって設定されます。
- ・ INFO : これは、SIPネットワーク要素が電話イベントとしてDTMFトーンをアウトオブバンドで送信するために使用します。
- ・ Auto : デフォルト設定。コーデックネゴシエーションの結果に基づいて設定を決定します。
- ・ InBand+INFO — InBandメソッドとINFOメソッドの組み合わせ。
- ・ AVT+INFO — AVTメソッドとINFOメソッドの組み合わせ。

ステップ 6 (オプション) : 優先コーデック方式のみを使用するには、[Use Pref Codec Only]ドロップダウンリストから[Yes]を選択します。

注 : 優先コーデックのみを使用することを選択し、接続先の他のデバイスがコーデックをサポートしない場合、コールはドロップされます。

ステップ7:[Yes (はい)]を選択して、[FAX CED Detect Enable (FAX CED検出の有効化)]ドロップダウンリストからFAX Caller-Enabled Digit(CED)トーンの検出を有効にします。CEDは、コールが受け入れられた後にファックスが送信する信号です。CEDは、コールパス内のエコーサプレッサを排除します。

ステップ8:[Submit All Changes]をクリックして、変更を保存します。